



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和3年
6月30日
(水)
No.2



○児童生徒の実態把握～イメージマップの結果分析～

6月21日(月)には、これからのプロジェクト型学習実施に向けて、イメージマップを作成してもらいました。ご協力ありがとうございました。結果の分析をFIT(プロジェクトメンバー)で行いました。下記の表をご覧ください。

| 小学部 | 中学部 |
|---|--|
| <p>○1 イメージマップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> どの学年も自然が豊かなこと、生き物がよく見られることを挙げた児童が多かった。道の駅についても、どの学年も上位に入っていた。児童にとって、身近な場所と考えられる。 ダムについても取り上げている児童が多く、児童の生活の中には、定着していると考えられるが、アクアフェスタを取り上げている学年は6年生だけであった。 しゃくなげ館や特産物(えごま、米、ちよろぎ)を取り上げていることから、学年によって、これまで学習した内容が反映されていると考えられる。 名前が広く知られているカドーレも上位に入っていた。 5、6年生は、出会っている人たちが多く、地域の人を取り上げていることが多かった。 1～4年生は、3つの小学校の名前が入っており、児童にとって小学校は最初の地域の施設として位置付けていると考えられる。 <p>○2 将来残したいものについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年は、豊かな自然を残したいという意識をもっている。その中に川や山なども含まれている。 道の駅は、5年生以外で上位を占めていた。小学生には、福富といえは「道の駅」くらい身近であると考えられる。 高学年は、優しく明るい地域、人を残していきたいという項目が上位にある。これまで学習でかかわってきた人たちとの交流の成果だと考えられる。 低学年は知っている場所について残していきたいと考えている。 <p>○3 将来福富をどんな町にしていきたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然を大切にしたい町にしていきたいという思いが強い。 ごみがない町にしていきたい。 人と人が関わり、交流をすることができる町をつくりたい。人にたくさん来てもらえるような町にしたい。 お年寄りでも住みやすい町にしたい。お年寄りの人も平等に住みやすい地域になるといい。 自分たちの町をよくしたいと思っている児童は多くいるが、具体的にどうしていいかはまだ、考えることは難しいようである。 <p>★ 出てきた項目から、小学校では、総合的な学習の時間で学習した内容が大きく反映されていることが分かった。また、高学年は、人との関わりを重要ととらえている傾向があった。</p> | <p>○1 イメージマップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年ともに、他地区と比べて自然環境が良い(水や動物など)というイメージをもっている。 道の駅についても、全学年で高い数値が出ている。福富町の観光スポットとして、子供たちの中に定着していると考えられる。 地域の情報を外部に発信する場所として、全学年上位に入っている道の駅のお祭りであるアクアフェスタが適当ではないかと考えている生徒がいる。(○3 将来福富をどんな町にしていきたいか に関する。) 地域で生活することによって身に付いている知識に、学年による差は少ないのではないかと考えられる(自然が豊か、特産物など)。一方で、学校で取り扱った内容については、学年で差異が見られる(虚空蔵山、水岩伝説、プナの原生林、ウォーターバーなど)。 <p>○2 将来残したいものについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年ともに、福富町の自然を守っていききたいという意識をもっている。 子供たちの中には、純粋な自然というよりは、地域の農業や福富ダムなどを含まれ、里山のイメージがあるのではないかと考えられる。 全学年ともに、人とのつながりや地域のあたたかな関わりを大切にしたいと考えている。 地域の伝統行事を守っていききたいと考えている生徒もいるが、上記の2つと比べると少ない。 道の駅については、○1と比べると少ない。守らなければならないものとしてのイメージはないのではないかと考えられる。 <p>○3 将来福富をどんな町にしていきたいか</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が、福富町の豊かな自然を残していきたいと考えている。 自然を守るため、ごみ拾いや森の間伐を行う必要があると考えている。 一方で、地域を維持していくためには人口減少を食い止める必要もあると考えており、福富の良さを外部に発信(マップ作製、SNSの活用、アクアフェスタでの発表など)して、福富町への移住者を増やしたいと考えている。 福富の良さである自然の豊かさを体験してもらうため、環境を整備する必要があると考えている生徒もいる(ツリーハウスや空き家ホテル、ロープウェイなど)。 住みやすい環境にするため、コンビニなどのお店もあったほうがよいと考えている生徒が多いが、自然環境への配慮も両立させる必要があると感じている。 自然環境の保全と、町の発展の両立を考えている生徒が多数いる。 |

全学年で「自然」について、守っていききたいというイメージが強いです(農業や福富ダムも自然に含まれているので、里山のほうが近いかもしれません)。学年による違いも、全体計画やルーブリックを作成するために、さらに分析を進める必要があります。参照:共有データ→☆多令和3年度探究的な学習(県指定)集計表もご覧ください。

○①本質的な問い→②単元を貫く問い→③個別の問いとは?

探求型やプロジェクト型学習で盛んに取り上げられている「①本質的な問い」とはどのようなものなのでしょうか?調べたものをまとめると「単元を超えて、繰り返し問われる、生涯にわたって包括的に通用する問い」このような感じになります。難しい…。カーナビを例に挙げてみましょう。自動運転システムの発達により、カーナビは必要なくなると言われています。そこで②として、「カーナビが生き残るためにはどうすればよいか?」という問いを設定したとします。そうすると、③は、「性能をよくする。」や「値段を安くする。」になります。ところが、①に「移動の時間を快適にするためにはどうすればよいか?」という問いが設定されていたとすると、③は、「使用者が必要な情報を提供する。」など問いが変わってきます。①により、③が変わっていくことになります。6月25日(金)の放課後に花岡指導主事と寺山校長、FITで行った協議会では、福富小・中学校が行う、生活科、総合的な学習の時間での探求的な学習の本質的な問いはどうすればよいか話し合いました。案として、



「福富を魅力ある町にしていくためにはどうすればよいか(仮)」

がよいのではないかということになりました。この問いを常に投げ掛けながら、活動をしていくことになります。福富が魅力ある町になれば、研究テーマにある「福富の地域に誇りをもち～」が達成されることとなりますね。

○授業形態が決定!～複数学年での実施になります～

| | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|------|
| 小1年生 小2年生 | 小3年生 小4年生 | 小5年生 小6年生 | 中1年生 中2年生 | 中3年生 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|------|

左の表のように2学年ごと、縦割りでプロジェクトに取り組むことになりました。(中3は受験のため、単独で行います。)最大のメリットは、複数の職員で相談しながら活動できることです。未知の部分が多く、単元の内容もまだまだ検討中です。積極的にコミュニケーションをとって、単元開発をしていきましょう!

これからの予定

- 7月 5日(月) FITのみ
第1回研究推進協議会 授業巡回
広島県義務教育指導課 小坂指導主事来校
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
- 7月 9日(金) 13:00～16:30
朝倉教頭、飯垣、岡
第2回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会【東区民文化センター】
- 7月12日(月) 15:00～16:30
単元の作り方(全体)
- 8月 5日(木) 全員参加、終日
ドリームマップ作製(ワークショップ)
- 8月17日(火) 9:00～16:30
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
年間指導計画の検討(グループ・学年別)
- 8月25日(水)～27日(金) 3日とも終日
FIT+α(できるだけ他教員も参加) 理論研修

先達の言葉

楽しもうと決心すれば、
たいていいつでも
楽しくできるものよ。

アン・シャーリー(「赤毛のアン」主人公)

7月には、各グループでの単元計画の作成が始まります。日常の活動と並行して、新たな取組の計画を立てていかなければなりません。忙しくなってくると、心にさざ波が立ってくることもあるでしょう。そんな時こそ、お互いの言葉、笑顔が力になります。未知なる道を、皆で楽しみましょう!